

関高ニュースレター2018 No.18

関高生の小中学校授業アシスタント

平成30年6月12日(火)

2年生の有志32名が近隣の小中学校へ授業のアシスタントをしに行ってきました。これは関高校初めての取り組みです。中濃地区から教員になる人が減っていることを危惧した校長先生が、「少しでも生徒達に教職に興味を持ってもらえる取り組みができないか？」と発案されました。前期中間考査最終日の午後に、「母校の中学校に出向いて、授業をしている中学校の先生のアシスタントをしてもらえないか」と応募をしたところ、40名ほどが名乗りをあげてくれました。教員志望の生徒も、そうでない生徒もいますが、「後輩達のために人肌脱ごう！」と気持ちよく手を挙げてくれた生徒ばかりです。その中で調整ができた、以下の学校へ出かけました。

旭ヶ丘中学校 8名、桜ヶ丘中学校 3名、緑ヶ丘中学校 9名、下有知中学校 3名
美濃中学校 4名、桜ヶ丘小学校 5名、計32名です。

当日はいくつかの学校に新聞社やケーブルテレビの取材が来てくれて、関高生の活躍を取り上げていただきました。CCNでは「エリアトピックス」で放映されます。小中学校の先生方にも快く受け入れていただきました。ありがとうございました。



初めまして！



緊張の対面！



チームティーチング



理科の授業！



ほぼ先生！？



分かってもらえるかな？



優しいお姉さん！



先生達との座談会



懐かしい先生と！



毎日来てくれないかな？

母校の後輩に学習指導
教職に関心のある関高生



関市の関高校の二年生で教職に関心のある三十四人が十一日、母校の小中学校を訪れて授業のアシスタ

生徒のキャリア教育につなげようと、学校が初めて

中学生に文法を教える高校生＝関市緑ヶ丘中で

企画した。同市緑ヶ丘中学には九人が訪問。英語の授業で後輩と一緒に会話をしたり、数学では机の横に立って方程式の解き方を教えたりした。

国語で文法問題の採点を手伝った加藤朱音さん（二）は「中学生の時の気持ちを思い出しながら、どんな教え方をしてほしいかを考えました」と話した。同中学校の西川正人教頭は「教員後には一人な立派な先輩になれるのだと、生徒にとっても良い刺激になったのでは」と歓迎していた。

（本間豊子）

中日新聞 6/12

生徒の机を回りながら数学を教える高校生＝関市校舎3丁目



関高生「教師」が奮闘 桜ヶ丘中で職場体験

興立関高校の生徒3人が12日、関市立桜ヶ丘中で「教師」として数学の教壇に立った。教員志望の生徒らが、職場体験した。

同校が連携し、キャリア教育の一環として初めて行った。高校生は、複数の教員が教える「チームティーチング」の教師役として桜ヶ丘中の教員と一緒に生徒を教えた。

高校生たちは机を巡回しながら中学生の質問に丁寧に答えた。教員のアドリブで高校生が自作の数式を出題する場面もあった。

教員志望だという関高の波多野翔太さん（2年）は「中学生が積極的に質問してくれたので楽しく教えられる」と話した。

（山野拓郎）

朝日新聞 6/12

～ 生徒の感想から ～

- ・教えるということはすごく難しいことだと思いました。でも中学校の子とたくさん交流ができて楽しかったです。
- ・中学生がとてもかわいくて楽しかったです。数学を教える中で教えることの難しさが分かり、とてもいい経験になりました。ぜひ、また行きたいです。
- ・久しぶりの母校は非常に新鮮に感じられ、自分のことを覚えていてくれる生徒がいてとても嬉しかった。また、知り合いの先生方にも会えて本当にあっという間の楽しい時間でした。
- ・最初は教えられるか不安だったけど、質問にしっかり答えることができたので良かったです。実際自分が先生の立場に立ってみると中学のときは分からなかった先生の苦勞も分かったり、楽しさを知ったりできました。
- ・自分が小学生のときは感じることのできなかつた先生方の生徒への暖かい愛が、こんなに存在することを知った。嫌なことは本当に1つもなかった。生徒のみんなも素直だったから私たちもスムーズに対応できた。
- ・先生のすごさが分かりました。私は「分からなかったどうしよう。質問に正しく答えられるかな？」と不安でいっぱいでしたが、先生は迷うことなく丁寧に教えていました。これは自信とたくさんの知識、思いやりがないとできないと思います。だから、先生って偉大だなんて、自分が先生という立場になってみて分かりました。自分の母校に行けて良かったです。私たちが受け継いだ伝統、新しくつくってきた伝統、そういう母校の様子が見れたので嬉しかった。誇らしかったです。